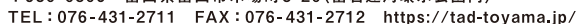


	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30 - 18:00	・毎週水曜日（祝日除く） ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展：一般300円(240円)※（ ）内は20人以上の団体料金 ・企画展：展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。
オノマトベの屋上	8:00 - 22:00	12月1日～3月15日	
駐車場	8:00 - 22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 (事前精算機をご利用ください。)

- ・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料
 - 1) 児童、生徒(小・中学生、高校生など)
 - 2) 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者(観覧料免除申込書が必要です)
 - 3) 各種手帳をお持ちの障がい者の方の観覧
(付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料)
- ・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料
(大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校(4年以上)、専修学校(専門課程)、専修学校(一般課程)の19歳以上)、通信制大学、放送大学です)
- ・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
- ・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

- 富山駅北口(あいの風とやま鉄道改札側)から
徒歩約15分/タクシー約3分
バス:1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
- 富山空港より……タクシー:約20分(約9km)
- 北陸自動車道より…自動車:約15分(富山I.C.から国道41号経由)



2023 → 2024



Toyama Prefectural Museum of Art & Design

富山県美術館(TAD)
 展覧会スケジュール
 2023.4 - 2024.3

スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室1	第Ⅳ期 - 4/25	コレクション展Ⅰ期 4/27 - 7/25					コレクション展Ⅱ期 7/27 - 10/24		コレクション展Ⅲ期 10/26 - 1/30		コレクション展Ⅳ期 2/1 -	
展示室2	生誕120年 棟方志功展 ーメイキング・オブ・ムナカター 3/18 - 5/21		「前衛」写真の精神.. なんでもないものの変容 瀧口修造・阿部展也・ 大辻清司・牛嶋茂雄 6/3 - 7/17		大竹伸朗展 8/5 - 9/18				金曜ロードショーと ジブリ展 10/7 - 1/28			倉俣史朗のデザイン ー記憶のながの小宇宙 2/17 - 4/7
展示室3												
展示室4												
展示室5	第Ⅳ期 -4/18	デザイン・ コレクション展Ⅰ期 4/20 - 7/17					デザイン・コレクション展Ⅱ期 7/20 - 10/31		デザイン・コレクション展Ⅲ期 11/2 - 2/6		デザイン・ コレクション展Ⅳ期 2/8 -	
展示室6	第Ⅳ期 -4/18	瀧口修造コレクションⅠ期 4/20 - 7/17					瀧口修造コレクションⅡ期 7/20 - 10/31		瀧口修造コレクションⅢ期 11/2 - 2/6		瀧口修造 コレクションⅣ期 2/8 -	
	第Ⅳ期 -4/18	シモン・ゴールドベルク &山根美代子 コレクションⅠ期 4/20 - 7/17					シモン・ゴールドベルク &山根美代子 コレクションⅡ期 7/20 - 10/31		シモン・ゴールドベルク &山根美代子 コレクションⅢ期 11/2 - 2/6		シモン・ゴールドベルク &山根美代子 コレクションⅣ期 2/8 -	
	企画展	コレクション展					まるとTADこども美術館					

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

コレクション展

2階 展示室1

約3か月に1度の展示替えて、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

3階 展示室5

デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザインコレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスターは、タッチパネルで好きな作品を大きく表示できる大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

3階 展示室6

瀧口修造コレクション

シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

富山県出身の詩人・美術評論家の瀧口修造と、世界的な音楽家シモン・ゴールドベルク&山根美代子のコレクション。瀧口の部屋には、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。



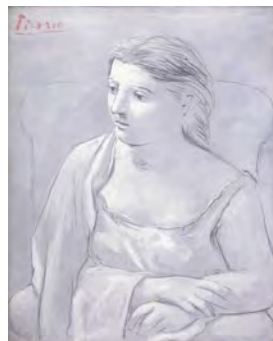
撮影:大辻清司《書斎の瀧口修造夫妻》1975年



ヘリット・トマス・リートフェルト(製造1990年代)
《レッド・アンド・ブルー》1918-23年



ジョアン・ミロ《パイプを吸う男》1925年
©Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR,
Tokyo, 2023 G3115



パブロ・ピカソ《肘かけ椅子の女》1923年
©2023 - Succession Pablo Picasso -
BCF(JAPAN)

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

富山県美術館開館5周年記念

生誕120年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ

2023年3月18日(土) - 5月21日(日)

一般(団体)：¥1,500(¥1,200)

大学生(団体)：¥1,000(¥800)

※()内は20名以上の団体料金

「世界のムナカタ」として国際的な評価を得た版画家・棟方志功(1903-1975)。一心不乱に板木に向かう棟方の姿は、多くの人々の記憶に刻み込まれています。棟方が居住し、あるいは創作の拠点とした青森、東京、富山の三つの地域は、それぞれに芸術家としての棟方の形成に大きな影響を与えました。棟方の生誕120年を記念し、各地域の美術館(当館、青森県立美術館、東京国立近代美術館)が協力して開催する本展では、棟方と各地域の関わりを軸に、板画、倭画、油彩画といった様々な領域を横断しながら、本の装丁や挿絵、包装紙などのデザイン、映画・テレビ・ラジオ出演にいたるまで、時代特有の「メディア」を縦横無尽に駆け抜けた棟方の多岐にわたる活動を紹介し、棟方志功とはいかなる芸術家であったのかを再考します。



《飛神の欄》1968年 棟方志功記念館蔵

富山新聞創刊100年記念

「前衛」写真の精神： なんでもないものの変容

— 瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄 —

2023年6月3日(土) - 7月17日(月・祝)

前期:6月3日(土) - 6月27日(火) / 後期:6月29日(木) - 7月17日(月・祝)

一般：¥900(¥700)

大 学 生：¥450(¥350)

一般前売り：¥700

※()内は20名以上の団体料金

4人の作家の交流と制作を辿りつつ、1930年代から80年代にわたる昭和写真史の一片片をご紹介します。1938年に「前衛写真協会」が結成され、中心人物だった瀧口は、超現実主義とは「日常現実の深い襞のかげに秘んでいる美を見出すこと」であると主張しました。瀧口と一緒に協会を立ち上げた阿部は、瀧口に共鳴しオブジェや風景の写真を発表しました。2人の影響を強く受けた大辻は、「なんでもない写真」と題したシリーズを手掛けます。大辻の愛弟子・牛腸は、技巧に凝らず日常を誇張なしに撮影した「コンボラ写真」の代表的な一人として注目されました。この4人の作品や資料、ウジェーヌ・アジェ、マン・レイなど関連作家の作品を通して、瀧口の思想を受け戦前から戦後へと脈々と引き継がれた前衛写真の精神とその魅力をぜひご堪能ください。



牛腸茂雄《SELF AND OTHERS》1977年 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵(前期のみ展示)

大竹伸朗展

2023年8月5日(土) - 9月18日(月・祝)

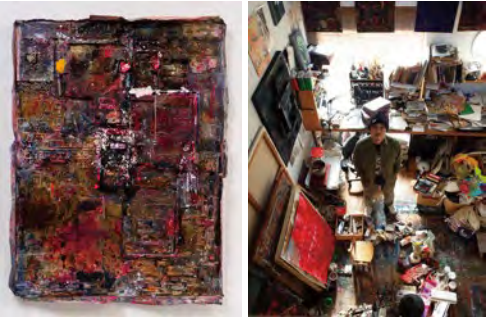
一般：¥900(¥700)

大 学 生：¥450(¥350)

一般前売り：¥700

※()内は20名以上の団体料金

大竹伸朗(1955-)は、1980年代初めに華々しくデビューして以来、絵画、版画、素描、彫刻、映像、絵本、音、エッセイ、インスタレーション、巨大な建造物に至るまで、猛々しい創作意欲でおびたしい数の仕事を手掛け、トップランナーであり続けてきました。近年ではドクメンタ(2012・ドイツ)とヴェネチア・ビエンナーレ(2013・イタリア)の二大国際展に参加するなど、現代日本を代表するアーティストとして海外でも評価を得ています。2006年に開催された「全景 1955-2006」以来の大規模な回顧展となる本展では、国際展に出品した作品を含むおよそ500点を7つのテーマに基づいて構成します。作者が「既にそこにあるもの」と呼ぶテーマのもとに半世紀近く持続してきた制作の軌跡を辿るとともに、時代順にこだわることなく作品世界に没入できる展示によって、走り続ける強烈な個性の脳内をめぐるような機会となるでしょう。



《残景 0》2022年 Photo: 岡野圭

©Shinro Ohtake, photo by Shoko

金曜ロードショーとジブリ展

2023年10月7日(土) - 2024年1月28日(日)

料金未定

※決定次第、当館ホームページにてお知らせします。

スタジオジブリは、1985年の設立以来、高畑勲監督や宮崎駿監督の作品を中心に、数々の名作アニメーションを世に送り出してきました。その作品が広く親しまれ、国民的アニメーションと呼ばれるようになった背景には、日本テレビの長寿番組「金曜ロードショー」の存在があります。1986年には「風の谷のナウシカ」も初めて同番組で放映され、以降、多くの作品が繰り返しお茶の間に届けられました。同じ時間に、日本中でたくさんの人が観る、特別な体験——本展では、「風の谷のナウシカ」をはじめ、「となりのトトロ」「かぐや姫の物語」「千と千尋の神隠し」「思い出のマーニー」など、スタジオジブリ作品の魅力を、「金曜ロードショー」で放映された時代の記憶とともにご紹介します。会場では、これまで語られなかったジブリ作品放映の秘密が明かされるほか、作品の世界に飛び込めるような、さまざまな空間が登場します。

同時開催：[まるごとTADこども美術館]

下記展覧会をはじめ、こどもも楽しめるプログラムを開催します。

START☆2023

富山県内の小・中・高等学校などの作品を紹介します。

会期：2023年12月9日(土) - 2024年1月28日(日)

会場：TADギャラリー 観覧無料



©1997 Studio Ghibli

倉俣史朗のデザイン — 記憶のなかの小宇宙

2024年2月17日(土) - 4月7日(日)

料金未定

※決定次第、当館ホームページにてお知らせします。

倉俣史朗(1934-1991)は、1960年代半ばから1991年に56才で亡くなるまで、家具・照明・インテリアを中心としたデザインの領域で世界的に注目を集めたデザイナーです。従来の家具やインテリアの領域ではほとんど用いられなかったガラスや建材用のアルミ、そして形を持たない光などに託して、自身の記憶や想像から浮かび上がるイメージを、独自のデザインとして展開していきました。多くは自主制作的に始まった家具や照明はもとより、商業的な依頼においても独自のデザインを探り続け、時に時代へのアイロニーも込めたその作品と思考は、没後30年以上を経た今なお国内外の人々の心を惹きつけています。今回の展覧会では、自身の事務所を構える前後の初期の仕事から、造花のバラをアクリルに封じ込めた椅子《ミス・ブランチ》(1988年デザイン、当館所蔵)などの代表作とともに、イメージスケッチ、映像、本人が遺したことばを織り交ぜ、作品だけではなく、デザイナー倉俣史朗自身の内面とその思考の背景にもまなざしを向けていきます。



倉俣史朗《ミス・ブランチ》(1988年)富山県美術館蔵 ©Kuramata Design Office